

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272301066		
法人名	有限会社吉原介護センター		
事業所名	グループホーム陽気		
所在地	静岡県富士市伝法657-1		
自己評価作成日	平成24年1月11日	評価結果市町村受理日	平成24年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272301066&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、お一人お一人の笑顔を引き出すよう、楽しい雰囲気づくりに努めています。また、皆で集合しておこなう転倒予防体操や、嚥下体操時には利用者様同士ふれあいも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7年が経過する今日まで、継続して利用者への機能訓練に取り組んでいる事業所である。毎日午前におこなわれるラジオ体操、指の体操、頸の体操などは日課となり、さらに利用者ごとにリーダーを務めることで各自が主役となる場面を作っている。訓練を楽しみにしている利用者もいるほど健康維持の取り組みが浸透している。さらに職員は笑顔を引き出すため、利用者の言動をユーモアを交えて支援することで楽しい雰囲気づくりを実現している。外出介助についての取り組みも継続されていて、利用者全員、毎日1回は散歩したり外気浴ができるという方針を続けている。調査時はちょうど天気もよく、車いすの利用者も近所の人と会話しながら楽しんで、少し早い春の訪れを感じながら散歩していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の重要性について、職員1人1人の意見を聴き、話し合い1つ1つの介護を、理念にてらし合わせ、振り返り確認するよう指導しています。	理念を毎月の会議で唱和することで、職員全員が暗唱できるまでになっている。昨年に比べると不適切な発言を自覚し反省できるようになるなど、理念を意識して職員自ら改善する傾向が見られているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事、どんどん焼き、防災訓練、お祭りには、参加しています。防災訓練では地域の方が施設まできて避難場所まで誘導してくれます。	ギターや音楽、踊りなど6団体ものボランティアが定期的に訪問してくれたり、昨年からは年数回、幼稚園との相互交流もおこなわれている。毎年近所で開催する「桜まつり」にブースを設けて参加していて、車いすの使用方法などを周知する場にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域の人たちに実際行っている支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、スタッフ会議にてスタッフ全員に伝え、サービス向上に活かしています。	運営推進会議では事業所でおこなったアンケート結果を伝えたり、民生委員の紹介などをおこなっている。散歩コースとなっている神社の参道で利用者の転倒事故があったことから、自治会長の協力により舗装されるなど運営推進会議が地域活動にも役立つこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回、市委託のNPO法人より、相談員2名が訪問にきてもらい、気づいた点を伝えてもらっています。	市職員は運営推進会議に定期的に参加していて、会議の開催頻度などについて意見も得られている。市の協力を得て介護事業所連絡協議会、グループホーム連絡協議会などにも参加し、行政職員を交えた勉強会で事業所間交流と相互の研鑽を行う機会になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関のカギは、開けてあります。身体拘束しないケアに取り組んでいます。社内研修会にて身体拘束について外部講師を迎え研修会を行っています。	毎年1回は身体拘束についての研修会を開催するようになった。今年度は外部講師を招いて研修会を開催している。施錠やベットでの拘束について、またスピーチロックについての職員意識を高める機会につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、他部署職員によるアンケートのほか、利用者様からの苦情には耳を傾けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に1, 2名参加するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質問にはすべて答え、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、その時の意見、要望を運営に反映させています。	開設以来欠かさず月に1回、利用者との話し合いの場をもち利用者からの要望や希望、意見を聞いている。利用者全員から定期的な聞き取りをすることで、普段から発言しやすい関係ができている。家族宛てに「かすみそう便り」を年4回発行し、生活内容を伝えている。	運営推進会議に参加していない家族の要望も何らかの手立てを講じて把握できるようにすることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案委員会を設けいつでも業務改善の提案が出来るようにしています。	個人面談を年2回開催し、個人ごとの目標を決めたり運営に関する意見を聴取している。業務の中から出た意見はスタッフ会議にて話し合い、運営改善に役立てている。会議の際には否定的な意見を出さないように、肯定的で積極的な進行をすることで新入職員も発言しやすくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規定にそい、半年に1回、人事考課を行い、自己評価及び管理者が評価を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の社内研修参加には手当てが支給され、社外研修への参加は、研修参加規程により、参加費、交通費等支給されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会参加や交換研修等で、他グループホームへ、実習に行く機会があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	去年8月26日に入居された利用者様に対し、何度もご本人、ご家族と話し合いの場をもうけ、利用者様が安心できる関係づくり、環境づくりにつとめました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の利用者様の入居前の話し合いで、困っていること、要望等を聴いて、関係作りにつとめました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、優先順位を決めたうえで、他のサービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや取り込みからたたむまでを行なっていただいたり、おやつ作りや、食器洗い等の声かけをし一緒にやれるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診同行の協力を仰ぎ、行ける時には、同行をおねがひしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診時に、自宅前まで行くようにしている人もいます。	どの利用者も概ね毎月1回以上の面会があり、元の同僚や友人知人などの面会もある。月1回は利用者から意見を聞くことで、外出の希望を速やかに家族に伝えられている。生け花など趣味も、概ね半分以上の利用者は在宅時と同じようにできていると評価している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人とよく話をし、その方の得意なこと、優れていることみつけ、皆に伝え、仲良くできるような環境づくりをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、利用者から相談があれば、応じる姿勢はもっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室内の模様替えの希望がある方には、模様替えを行っている。居室でテレビを見たり、手紙を書いたり指あみをされている方もいます。	遠慮しないで何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。月に1回、利用者との話し合い「陽気の会」ではおやつを食べながら一人ずつ「嫌なことはありませんでしたか。」「買い物などの希望はありませんか。」などの希望を聞いている。スタッフ会議では3ヶ月毎に話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ここでの生活に慣れてこられ、自然に家にいた頃の習慣を取り戻せた方がいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時や食事時、移動時等で、いつもと違うと感じたら、上司に報告、必要時は受診するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のスタッフ会議で、毎回3名ずつモニタリングを行い皆で、意見を出し合っています。	利用者ごとの担当者がモニタリングをおこなっている。利用者本位としてニーズを把握し、反映する方針をもっている。家族から「天気の良い日は外出してほしい」などの要望を受けて外出支援をプラン上に取り入れるなど、希望を実現することができるための取り組みをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表の様式を変更しケアプランに基づいた記録をするようにしています。1日2回の申し送りを行い、申し送りノートに記載し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療協力契約をクリニックと行い、医療機関2つと連携しながら行えるようにし、必要時、往診をおこなっています。歯科医の往診対応していただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(防災訓練や、どんど焼き等)に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の病気の専門医ではないが、本人の希望により、通い続けている病院があります。	半数以上が協力医に変更している。1名を除き全ての利用者は、受診に看護師などの職員が付添い必要事項を伝達している。昨年度からは往診できる医師と提携するようになり、月3回程程度の往診と24時間の連絡体制により万一の際にも安心できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職員が、契約クリニックとの連携を行ない、常時、介護職との連携もおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに面会に行き、看護師と情報交換、相談につとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、実際に取り組んだことはないが、スタッフ会議や運営推進会議で題材にあげはなしあっています。	昨年、看取りについての研修会に職員が参加し、スタッフ会議で話し合いをおこなっている。今後は外部講師を招いての終末期ケアの研修を予定している。退院時には他の利用者が出迎えてくれることもあり、利用者同士のつながりも精神的な支えとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	吸引機の使い方や転倒時の対応について研修は行なっているが、実践力はまだ身につけていない職員が多いです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回全体研修で勉強しています。年に各1回昼の防災訓練と夜勤時の防災訓練を行っています。	夜間の訓練も開催している。地域で開催する防災訓練にも協力し、近所の住民が担架を担いで参加に来てくれることが恒例となっているほどである。近日中に敷地内の防災倉庫を拡充し、災害時に備えた保管体制を整える予定もある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議、全体研修でも、何度も話しているがまだ、「ダメ」と否定したり「～してあげる」という言葉を耳にすることがあり、注意しています。	時間経過とともに馴れ合いにならないよう、「お客様はお客様である」として職員に教育している。利用者同士の関係についても、例えば「会話したい側」「会話したくない側」それぞれの立場を尊重し、職員の関わりで適切な関係ができるように実践している。	利用者への接遇について、職員間で統一した見解(理想像)を持つことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操やレクへの参加は促すが、利用者が参加・不参加を決定するようにしている。入浴もその方が、午前か午後か決めてもらうようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、参加するかしないかは本人の意思に沿い、自分のやりたいことをしていただく、やりたいことがないときは、いくつか選択肢をだしその中でやりたいことをしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等は、職員が援助し、身だしなみ・おしゃれの援助を行なっている。着替えの時はできるだけ2択3択で着るものを選んでいきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より、回数は減ったが、時々食事の準備やおやつを準備と一緒にすることがある。片付けはお膳を下げることを数名行なってくれます。	できるだけ利用者から意見を聞き、嗜好を反映させるようにしている。敷地内の畑で採れた食材もメニューに取り入れている。利用者には食材の下ごしらえや下膳後の片付けなど、出来る範囲で手伝ってもらうことにより食事へのかかわりを深めてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア日誌に食事・水分の摂取量を記入し、常に気にして、早めの対応をするようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声かけ、自力では不十分な方は一部介助にておこなっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、記入することで、一人一人の排泄リズムをつかみ声かけ等をするようにしています。	利用者の身体機能の状態により、排泄時に危険がないようにオムツを使用する場合もある。排泄チェック表に基づいて誘導しているが、時間だけでなく表情や動作からも排泄の兆候をつかんで適切な誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事が取れるよう、野菜をふんだんに使ったメニューにし、朝食がパンの日はヨーグルトを毎回出し、運動の時間を午前と午後に設けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの方がほとんどですが、その日の午前に入るか、午後に入るかは選択してもらうようにしています。	冬期は乾燥を防ぐため3日に1回の入浴を原則としているが、希望に応じて2日に1回の入浴も提供できる。湯は利用者ごとに継ぎ足して清潔を維持している。利用者ごとに湯温を調整することで、心からリラックスして入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、湯たんぽ・電気あんか・電気毛布希望のものを使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてを把握しているとまではいっておらず、薬の効能をみながら症状の変化の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広告でのゴミ箱作りや座布団・雑巾縫いなどその方のレベルにあった仕事をしていただいています。 デイサービスと合同のレクやボランティアによる音楽等に参加しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝、近所の神社へ参拝に行きたい方がおり、雨の日以外は同行しています。	散歩コースからは富士山も眺められ、調査時は近所の神社まで車いす利用の利用者も含めて一緒に散歩に出かけていた。利用者同士で心身機能を保つ意識も芽生えていて、介護度5が介護度4に改善された例もある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分でお金を持っている方は2名いますが、1名の方は希望があるが出来ていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で行なっている方は1名おります。行ないたいができていない方が1名います。支援も出来ていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの入口には空き・入っていますの札をかけてあります。リビングには金魚を飼っておりやすらぎを与えるようにしています。	廊下には行事の写真が掲示されていたり、利用者の作成した飾り付けがおこなわれている。利用者ごとに担当する体操があり、取り組みについての説明が顔写真付で分かりやすく掲示されていた。各洗面台にはアルコール消毒薬やうがい薬も設置され、感染予防への取り組みが覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルとTVなどを見るソファを別に配置することにより、思い思いの場所で会話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が、自宅で使用していたタンスや椅子を置かれている利用者様もいます。	居室内に洗面台やトイレは併設されていないが、その分広い空間が確保され利用者ごとに個性をもった空間が実現されている。他室の利用者が作成した飾り付けを取り入れている利用者もいて、調査時にも「〇〇さんが作ってくれたのよ」とお気に入りの作品を紹介してくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、トイレの介助バー等必要に応じて追加・変更を行なっています。		